

- 日 時 令和6年5月27日(月曜日) 午後6時30分～8時30分
- 場 所 武蔵野市役所412会議室
- 出席者 岩本会長、大久保委員(副会長)、安東委員、岩岡委員、久保田委員、後藤委員、佐藤(資)委員、杉本委員、立野委員、西村委員、長谷川委員、福本委員、山本委員、横井委員、横山委員
- 事務局 障害者福祉課長、基幹相談支援センター長、相談支援担当係長、管理係内主査、基幹相談支援センター係内主査

## 1 開会

## 2 障害者福祉課長あいさつ

## 3 委員及び事務局自己紹介

## 4 副会長の選任

## 5 配布資料確認

## 6 議事

### (1) 武蔵野市地域自立支援協議会について

#### 【事務局】

資料2-1～5について説明。資料2-2「武蔵野市地域自立支援協議会の傍聴に関する取扱要領」、資料2-3「武蔵野市地域自立支援協議会の公開・運営に関する確認」、資料2-4「武蔵野市地域自立支援協議会専門部会開催要領」について、前年どおりの取扱いとすることを確認。

### (2) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動方針について

#### 【会長】

資料4について説明。専門部会の構成等について、令和6年度は2か年の活動の2年目にあたるため大きな変更は無い。2ページ目には令和5年度の活動実績を踏まえた令和6年度の活動計画を示している。専門部会での活動は、2年目で一定のゴールを迎えるため、今期の部会のミッションを念頭に具体的な活動計画を立てていただきたい。令和6年度後半においては、次期協議会体制や部会構成のあり方について、各部会の中でも考えていただきたい。

### (3) 各専門部会の活動報告について

#### 【委員】(相談支援ネットワーク部会)

資料3に記載のとおり、利用者が気軽に社会とつながれる居場所の在り方や支援者同士がつながる仕組みについて検討していく。6月から部会活動を開始する。

#### 【委員】(相談支援ネットワーク部会)

昨年度の活動で部会員から具体的な事例を挙げてもらったので、今年度は具体的な居場所の在り方について話し合いたい。

#### 【副会長】(相談支援ネットワーク部会)

昨年度は相談支援事業所に在籍していない部会員も含めて意見交換を行い、相談支援の在り方について改めて考えるきっかけになった。今年度は各事業所が考える居場所や、支援者同士が繋がる機会といった内容について協議したい。

#### 【会長】

部会のミッションとして、「重層的な相談支援ネットワークの強化に向けた地域課題の抽出」を掲げているので、居場所・繋がりというキーワードから見えてくる相談支援の在り方や体制づくりといった内容について、今年度の活動でまとめてほしい。

#### 【委員】（地域移行部会）

6月5日に第1回部会を開催する。ピアサポーターの育成について、中野区のリトルポケットと協議する場を設けることになり6月に打ち合わせを行う。動機付け支援については、すまいる荻窪とピアサポーターを交えての交流会を行う。

#### 【委員】（地域移行部会）

精神科病院長期入院者の中には武蔵野市民がいるので、どのように地域の中で生活ができるか考えていく必要がある。ピアサポーターの育成について、保健所も連携しながら取り組んでいきたい

#### 【委員】（住まい部会）

今年度は4名の当事者が参加するので、当事者の意見を聞く中で地域における課題がより具体的に見えてくると考えている。その課題を基に武蔵野市でどのように活動していくべきか検討したい。昨年度から委員の入れ替わりがあるので、計画の内容や部会の位置づけについて改めて共有することで、全員が活動に参加できるよう配慮したい。

#### 【委員】（住まい部会）

一人暮らしがしたいという当事者の気持ちに寄り添った支援をするための情報や支援のツールをまとめられたら実用的だと思うので、今年度の活動で取り組んでいきたい。

#### 【委員】（当事者部会）

当事者部会では、精神障害のある当事者が増えていて、地域移行等の分野で今までに無い意見が聞けるのではないかと考えている。

#### 【委員】（当事者部会）

当事者部会から他部会の会議に参加することが多い。開催時間や方法を調整することで、これまで参加できなかった人の意見が聞けるのではないか。

#### 【委員】（当事者部会）

今年度の交流プロジェクトでは、昨年度の振り返りを踏まえて「当事者との交流がもっと自然な形でできないか」「楽しいことをしないと人が集まらない」といった視点から何ができるかという思いでスタートした。他県の事例でショッピングモールで開催したe-スポーツのイベントに多くの当事者が参加し、障害を超えて交流を行ったという事例を参考に、市内でそのような交流ができないか当事者部会で話し合った。当事者部会がイベントを企画するのは、体力や人手といった観点から難しいので、既存のイベントに当事者が参加する方が良い。ポッチャのような福祉的なイベントでは

なく、e-スポーツ等の楽しそうなイベントを一緒にできないかと考えているので、心当たりがあれば情報提供してほしい。

**【委員】（当事者部会）**

ふれあいカフェについて、今年度は昨年よりも参加者が増えるように呼び掛けていきたい。

**【委員】（当事者部会）**

ふれあいカフェには第1回から参加していて思い入れもあるので、もっと充実させていきたいと考えている。それぞれの活動がうまくいくように引き続きサポートしていきたい。

**【委員】（当事者部会）**

交流プロジェクトについて、10月に武蔵野総合体育館でスポーツフェスティバルをやっているので、ゲーム感覚で楽しいイベントができるのではないかな。

**【会長】**

新しい企画だけではなく、既にある企画と一緒にやっていくという発想は大切だと思う。

部会からの報告は以上だが、ここからは自由に意見交換をしたい。

**【委員】**

相談支援ネットワーク部会で、子どもの相談についての話題はあるか。地域移行部会について、精神障害以外に知的障害等について取り扱うことはあるか。

**【委員】（相談支援ネットワーク部会）**

成人を対象とした事業所からの部会員が多いので、成人に関する話題が多い。児童への支援について知りたいという気持ちは強いので、うまく支援のネットワークが作れると良い。

**【副会長】（相談支援ネットワーク部会）**

児童の相談を受ける中では児童の家族に関する相談も多くあり、家族への支援も含めた相談支援を考えていく必要がある。ライフステージを通じてつながりを意識した相談支援が求められている。

**【委員】**

相談支援を利用する中で、制度や体制の問題で解決に繋がらないことも多い。周りの保護者から様々な困りごとがあるという声は聞こえてくるが、その声が自立支援協議会には届いていないのではないかなという思いがある。来年度の部会編成の話になるかもしれないが、何らかの形で児童への支援について話し合う場が必要だと感じている。

**【会長】**

支援の目標に到達できない原因が、支援スキルの問題なのか、ネットワークの問題なのか、様々な理由が考えられるが、その中で地域課題として捉えられる部分は協議会の中で地域課題として位置付けていく必要がある。子どもの相談支援について課題に感じていることがあれば、相談支援ネットワーク部会でも共有してほしい。

**【委員】（地域移行部会）**

地域移行部会では、精神障害により長期入院している方を前提にしているので、知

的障害だけがある方についての話題はあまり無い。

**【会長】**

地域移行部会について、今回は精神科病院からの地域移行に焦点を当てている。障害者施設からの地域移行も地域課題として考えていく必要があるが、これまで精神科病院からの地域移行についてあまり協議されて来なかった中で、今回はその部分に焦点を当てている。精神科に入院中の方が対象なので疾患は様々であり、中には認知症や知的障害が主な疾患という方もいる。現状では福祉施設からの地域移行には手が付けられていないという状況である。

専門部会の開催時間について発言があったが意見等はあるか。

**【委員】（当事者部会）**

人によって出席しやすい時間が異なるので、当事者部会では1つの時間に絞るのではなく、複数の開催時間を試してみようと考えている。

**【副会長】（相談支援ネットワーク部会）**

相談支援ネットワーク部会では、昨年度の後半から開催時間を30分短くした。

**【委員】（地域移行部会）**

地域移行部会もできるだけ1時間半に収まるようにしている。

**【会長】**

各専門部会で委員構成や状況が異なるので、部会ごとに工夫していただき、うまくいった取り組みがあれば親会で共有してほしい。

**【委員】（当事者部会）**

当事者部会では、2時間の会議の途中で休憩を挟んでおり、休憩中の雑談で課題が見つかることもある。

**【会長】**

以前から当事者部会の参加者が少ないという課題があったが、先ほど当事者部会から精神障害のある方の参加が増えているという報告があった。何か工夫したことはあるか。当事者の参加はとても重要だと考えており、親会として何かできることはあるか。

**【委員】（当事者部会）**

精神障害のある方は、事業所の利用者同士の口コミで繋がった。コロナ禍以前は対面で集まって当事者同士が何気ない会話をできる場所があったが今は無い。

**【会長】**

そのような機会は、相談支援ネットワーク部会の「居場所」「繋がり」にも関係する話なので、今後考えていきたい。

当事者部会での活動について、活動内容はどのように広報しているか。

**【委員】（当事者部会）**

自立支援協議会で活動報告した内容が市ホームページに掲載されているが、SNS等での周知は特にしていない。

**【会長】**

せっかく良い活動をしているので、工夫して活動内容を発信してほしい。

#### (4) 全体会（第1回）の開催について

##### 【会長】

全体会について、コロナ禍前は、専門部会の活動期間が1年ごとであったこと、部会長を親会委員が務めていなかったこともあり、継続性の観点から年度当初と年度終わりの年2回開催していた。前期から2年ごとの活動になり、今年度は活動の2年目にあたるため、年度当初の全体会は開催せず、年度末の全体会で2年間の活動報告を行いたいと考えている。

##### 【委員】（相談支援ネットワーク部会）

以前は全体会をキックオフとして専門部会の活動が始まるといった形だったが、今年度は活動2年目ということもあり既に活動を始めている部会もあるので、開催しなくても良いと考えている。

##### 【会長】

今年度の全体会は年度末の1回としたい。なお、新たに部会委員になられた方には、親会委員から活動内容等を説明していただきたい。

#### (5) 令和6年度報酬改定に伴う影響について

##### 【事務局】

資料4について説明。障害者福祉サービスは3年に1度報酬改定があり、令和6年度は改訂年度となる。資料4は令和6年2月9日に国が発出した資料を一部抜粋したものである。資料中の1～8のうち、1は従業員の処遇改善やBCPの作成といった横断的な事項である。2～6は障害者のサービスに関する改定内容で、訪問系、日中活動系、施設系・居住支援系、訓練系、就労系に分かれている。7は障害者・児の両方に係るもので、主に計画相談に関する内容である。8は障害児に係る通所系サービスである。なお、今回から障害児支援に係る部分が子ども家庭庁の所管となっている。国から詳細な資料が示されたのが3月末で、市としてもまだ整理しきれていない。

##### 【会長】

報酬改定について様々な影響があると思うので、現場の状況について情報交換したい。

##### 【委員】（相談支援ネットワーク部会）

今回、様々な加算が付くようになったが、例えば医療連携について具体的にどのような条件を満たせば加算を付けていいのかといった加算の条件がまだわからない。

##### 【事務局】

加算を取るための様式が国から示されたのが4月に入ってからであり、また国から示されるQ&Aも随時更新されている状況であるため、市としても現時点で明確な解釈を示すことができない。

##### 【委員】

就労支援継続B型では、利用者が安定して通所しているので大きな混乱は無く、新しい算定方式に基づいて計算をしていく。生活介護についても大きな混乱は無い。児童の部分については報酬改定で見直しが入るので今後の課題だと考えている。

##### 【委員】

グループホームについて、国保連と都加算の請求に分かれているが、都加算の様式がまだ決まっておらず、請求できずに困っているという話を聞いている。

**【会長】**

報酬改定により、国が強化したい部分には加算が付くようになるが、加算を取れるのにとっていないという事業所の話をよく聞くので、きちんとした評価が受けられるように進めていってほしい。

**【委員】**

協議会に参加していない事業所では、報酬改定に関する情報が入って来ない事業所もあるので、何らかの形で説明の機会を設けてほしい。

## 6 その他

### (1) 武蔵野市地域自立支援協議会について

**【事務局】**

資料5について説明。障害者福祉センターについて築40年以上が経過しており、経年相当の劣化が進行しているため改築に向けた検討を行っている。令和4年度に基本計画を定め、令和5年度には基本計画に基づき、建物の基本設計を進めてきた。基本設計では、基本計画のコンセプトや事業計画を実現するため、8つの基本設計の方針を掲げている。今後のスケジュールとして、令和6年度からは実施設計やまちづくり条例に基づく手続きを進めていき、令和7年度末からの解体工事、新築工事を経て令和10年4月から供用開始となる。工事期間中は中町にある仮施設を利用する。

## 7 閉会

— 了 —